

資源循環の推進

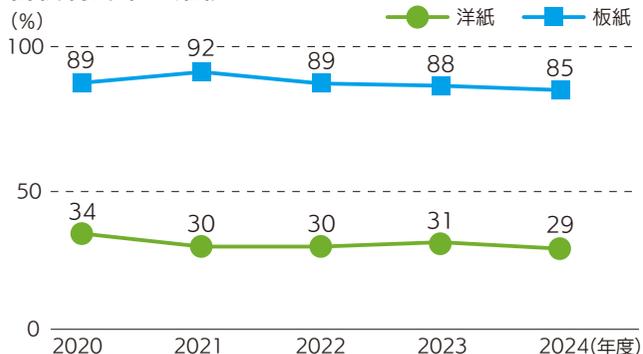
1 基本的な方針

📖 →P94 日本製紙グループ環境憲章

2 古紙利用の取り組み

当社グループは、古紙を重要な原材料と位置付け、未利用古紙のリサイクルに取り組んでいます。

古紙利用率の推移(国内*)



* 2021年度からロシア産紙も対象範囲に含んでいます

事例

食品・飲料用紙容器の再資源化設備稼働(日本製紙)

2022年に当社富士工場にて食品・飲料用紙容器類の古紙からリサイクルパルプを製造する専用設備を、2023年に関東地区にて破碎洗浄設備をそれぞれ稼働させ、精度高く分別された食品・飲料用紙容器類由来の古紙を原料に利用することによる高品質・高白色度のリサイクルパルプ製造が可能となりました。本設備で生産されるリサイクルパルプの特徴を活かし、付加価値の高いさまざまな紙製品への再生利用を進めることで、使用済み紙容器リサイクルの普及に努め、新たな資源循環ビジネスの構築を進めます。

事例

日本航空、東罐興業との三社協働による紙コップリサイクル(日本製紙)

当社は2022年より、日本航空株式会社(以下「JAL」)と紙コップ等のリサイクルにおける協働を継続しています。JALグループが一部国内線の機内サービスで使用した紙コップ等を適切に分別・回収し、当社グループが輸送・集積・梱包を行う独自のルートを構築しています。当初は段ボール原紙等へのリサイクルに限定していましたが、さらなる取り組みとして、紙コップメーカーである東罐興業株式会社との三社協働により、2024年に「紙コップから紙コップへ^{※1}」の水平リサイクルを国内で初めて^{※2}実現しました。

※1 原料の一部に使用済み紙コップ等を含む再生紙を使用

※2 当社調べ

レストランやスポーツイベントなどでの紙容器リサイクル(日本製紙)

当社は2024年より日本マクドナルド株式会社と協働し、埼玉県内の4店舗で使用済み紙コップを回収しリサイクルする取り組みを開始しました。

東京マラソン2025では走者およそ4万人が使用した紙コップを回収しリサイクルしました。全国各地で開催されるマラソン大会でも同様のリサイクルを進めています。

さらに、プロバスケットボールチームのアルバルク東京(B.LEAGUE)の試合会場でも、使用済み紙容器の回収とリサイクルを開始しました。

このように、さまざまな場面で難利用古紙の資源化とリサイクル紙製品の提供を通して環境課題の解決に向けて取り組んでいます。

また、未来のリサイクルを担う子どもたちの意識醸成を目的としたKANDO株式会社との取り組みも継続し、将来のリサイクル率向上を目指しています。

“choito®”を軸とした、使用済み紙容器のアップサイクルプロジェクト(日本製紙、日本紙通商)

当社グループは、2024年に使用済みの食品・飲料用紙容器を原料の一部に使用した紙系からつくる布製品ブランド“choito®”を立ち上げました。回収された使用済み紙容器を当社富士工場にて高品質なリサイクルパルプに再生し、そのパルプを用いた紙系を使い、タオルやエプロン等の布製品の提供を開始しました。これまでに、日本航空株式会社、株式会社京橋千疋屋およびUCCグループからの要望に応じて、オリジナルタグや刺繍を施したデザインの製品を販売しています。本プロジェクトを通じて多くの事業者との協働を促進し、これまで廃棄されていた使用済み紙容器類のリサイクル拡大に貢献していきます。

剥離紙リサイクルへの取り組み(日本製紙)

当社は、シールやラベルの台紙に使われる剥離紙用の原紙を製造しています。これまで廃棄されていた剥離紙を、拡大生産者責任の観点から再資源化する取り組みを進めています。現在、使用済みの剥離紙を収集し、段ボールの原紙やノートの表紙などにリサイクルしています。

また、一般社団法人ラベル循環協会^{*}(J-ECOL)と連携し、ニチバン株式会社などのユーザーから使用済み剥離紙を回収し、リサイクルを推進しています。さらに、剥離紙をよりリサイクルしやすくするために、PEラミネート層を必要としない剥離紙用原紙(片面コート紙)を提案し、プラスチック削減にも貢献しています。

^{*} 使用済み剥離紙における資源循環の普及促進を目的として2023年5月に設立。シール・ラベルの使用や製造、リサイクルに関連する企業・団体が参加

資源循環の推進

事例

〈「クローズド・ループ」の取り組み(日本製紙)〉

回収された新聞古紙やカタログ用紙を長期的かつ安定的に原料として資源循環させるため、当社は、お客さまが回収した古紙を直接買い受ける「クローズド・ループ」というスキームを構築しています。2023年4月には、新たに株式会社DINOS CORPORATIONと、カタログ古紙の「クローズド・ループ」の構築による資源の国内循環を目的として、古紙の売買および循環に関する契約を締結し、運用を開始しました。

紙コップ回収リサイクル(日本製紙)

当社は、2019年より本社オフィス内で使用された紙コップを回収し、当社足利工場において段ボール原紙の原料としてリサイクルする取り組みを行っています。2024年度は、17.5万個の紙コップを回収しました。

紙パックリサイクル『PakUpcycle®』(日本製紙)

当社は、「Pak」(飲料用紙パック)と「Upcycle」(不用品を、商品としての価値を高める加工を行い再利用すること)を合わせた造語『PakUpcycle®』(パックアップサイクル)というキャッチフレーズのもと、さまざまな取り組みを行っています。

〈紙パック回収リサイクル〉

グループ各社の拠点に紙パック回収ボックスを設置し、従業員に対し、紙パックリサイクルの意識啓発に取り組んでいます。また、紙パックの回収を、社会全体で資源を有効活用するための活動と位置付け、回収事業者と連携し、各種施設・学校などへリサイクルの働きかけを強化しています。2017年から、練馬区を中心に当社独自の方式により回収(2024年度実績:4.3トン)しており、家庭紙の原料として使用しています。

〈飲料用アルミ付紙パックのリサイクル〉

飲料用アルミ付紙パックのリサイクル工程で廃棄物処理されている、ポリエチレンとアルミニウムの混合物(以下「ポリアル」)をマテリアルリサイクル[※]するため、株式会社リプロや萩原工業株式会社と協働し、ポリアルの用途開発に取り組んでいます。ポリアルを原料に使用した境界杭が、複数の森林組合で採用されています。

※ 廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法

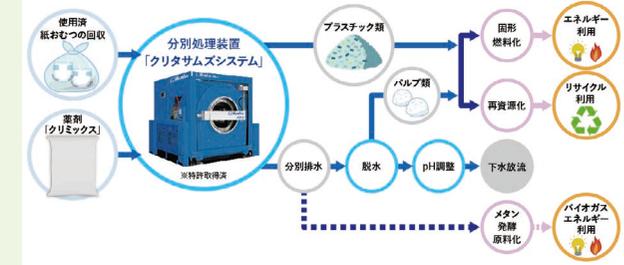
〈学校給食牛乳用紙パックのリサイクル〉

2023年に豊橋市周辺地域に学校給食用の牛乳(学乳)を供給する中央製乳株式会社で、School POP[®] → P62が採用されました。これを受け豊橋市では、ごみの減量化、資源の循環利用を目的とした学乳用紙パックのリサイクルを開始するとともに、学校における環境教育を推進するために出前授業などを実施しています。当社社員も中央製乳株式会社の社員とともにこの出前授業に参加し、講義や紙すき体験などのお手伝いを行いました。学校からは、リサイクルへの興味が高まった、牛乳の大切さがわかったなどの感想をいただいています。

栗田工業との“環境にやさしい”紙おむつの共同開発
(日本製紙クレシア)

国内で発生する使用済紙おむつのほとんどは、一般・産業廃棄物処理施設で焼却処分されています。高齢化社会の進行などに伴い、使用済紙おむつの発生量は、今後も増加が予想されるため、再資源化への要請が高まっています。当社グループの日本製紙クレシアは、栗田工業株式会社(以下「栗田工業」)と共同で、“環境にやさしい”紙おむつの開発を進めています。本開発では、日本製紙クレシアが紙おむつ製品に係る情報を、栗田工業が開発した「クリタサムズシステム[®]」で分別処理した際の情報を出し合い、分別処理されたプラスチック・パル

プ類のマテリアルとしての品質向上につながる紙おむつの製品仕様を検討しています。本開発を通じ、循環型社会の構築や脱炭素社会の実現に寄与することで、持続可能な社会へのさらなる貢献を目指します。

【クリタサムズシステム[®]を利用したリサイクルフロー】草加市にてティッシュ空き箱リサイクルの実証実験を開始
(日本製紙クレシア)

当社グループの日本製紙クレシアは埼玉県草加市と「循環型社会の形成に関する取組に係る協定」を締結し、2024年4月から市内5ヶ所の公共施設で「ティッシュ空き箱リサイクル実証実験」を開始しました。回収した空き箱は当社グループで段ボール原料などに再利用し、回収量に応じて市内小中学校にトイレトロールを提供します。また、回収した空き箱の一部は雑紙保管袋に生まれ変わり、草加市内の小中学校へ配布し、リサイクルの理解を深めていただきました。今後も連携を強化し、紙のリサイクル推進と持続可能な社会への貢献を目指します。